

えりも

海と大地のふるさと



E R I M O

町木



エリモシャクナゲ

町花



エゾヤマツツジ



イメージ
キャラクター

ウインディーくん



町章

えりも町

総面積 / 283.87km²

人口 / 4,846人 (2017年9月現在)

北海道中央部、その最南端に位置するえりも町は、豊かな水産資源と雄大な自然景観に恵まれた漁業と観光のまちです。逆三角形を成して太平洋に突き出ている、北海道の背骨と呼ばれる日高山脈が落ち込む襟裳岬、断崖絶壁の海岸が続く黄金道路など、数多くの景勝地を有しています。また、その特異な地形により風速10m/s以上の強風・暴風日数は260日以上もあることから、「風のまち」として歴史を刻み文化を育んできました。



風のまち
その記憶と挑戦



緑化に着手する前(Before the greening project started.)
風により赤土が舞い上がり海が真っ赤になったという。(1961年頃)
Wind blew reddish-brown volcanic soil, which changed the sea into red. (Around 1961.)

「えりも砂漠」から「風のまち」へ

日高山脈が次第に標高を下げながら落ち込む襟裳岬。岬は高さ60mを越える断崖絶壁、その先端からは水面上で約2km、水面下ではおよそ5kmの岩礁地帯を形成し、山脈がそのまま海に続いていることを物語っています。

このように海中に山が潜んでいる地形ゆえ、過酷で特色ある自然現象を伴い、明治～大正～昭和にかけて岬とその周辺は荒廃が進みました。1年のうち100日にわたって濃い霧に覆われ、風速10m/s以

上の強風・暴風日数は260日以上もあり、まさに1年中強い風にさらされる地。そこに、開墾時の森林伐採と家畜の過放牧などの要因が加わり、緑は消え失せ、辺り一面は赤土の荒涼とした原野が広がるばかりに。それが、かつて「えりも砂漠」と呼ばれた所以です。

一方、襟裳岬周辺の海は千島海流と日本海流という2つの潮流が交わる場所で、国内屈指の豊かな漁場でもありました。一帯の砂漠化は、砂や泥が住宅や飲料水のな

かに入り込むなど、人々の生活環境を悪化させただけでなく、常に舞い上がる赤土は海の色をも変え、やがて漁業にも大きなダメージをもたらします。岬とその周辺に根づいた人々は、海が汚れ魚や昆布などの水揚げ高が激減したにもかかわらず、この地を離れることはありませんでした。その代わり知恵と力の結束を誓い、かつての美しい海を、豊かな漁場を取り戻そうと立ち上がったのです。こうして、えりもは「風のまち」として再生の一步を踏み出すこととなります。

風との共生をめざして、まちづくりを展開

砂漠化を食い止めるため、どのように緑化を進めるのか、また1年中吹きすさぶ強風とどう向き合い文化を育んでいくのか——この2つをテーマに据え、「風のまち」の挑戦がはじまりました。

1953年(昭和28年)、第二次世界大戦により中断された治山事業を復活させる形で、緑をよみがえらせる本格的な取り組みがスタート。荒廃した土地を復活させるには、まず草を生やさなければなりません。しかし、草本緑化は困難を極めました。なぜなら、まいた種子が強風に吹き飛ばされてしまうからです。試行錯誤が続くなか、1957年(昭和32年)に種子をまいたあとに雑海藻で覆う「えりも式緑化工法」が開発され、1970年(昭和45年)には192haの草本緑化が終了。さらに、並行して進められた木本緑化は、針葉樹のクロマツを中心に、広葉樹のカシワやアキグミなどを組み合わせ、厳しい自然環境に対応できるよう防風施工の改良を重ね、2016年(平成28年)までに196haを完了しました。こうした緑化事業により、魚介類の水揚げ高は徐々に伸び、また昆布の

品質も著しく向上するなど、漁業振興につながったことはいうまでもありません。

えりもの地に緑が戻ってくると、風をまちおこしに積極的に組み入れていこうとする動きが出てきました。「風のまち」の次なる挑戦、風との共生です。

1996年(平成8年)、風をエネルギーとして利用する第一歩として、民間企業が出資し2基の風力発電を襟裳岬で開始。自然エネルギーである風力発電のモデル事業として注目されました。1997年(平成9年)には、風をテーマにまちおこしをしていこうとする市町村が集い「全国風サミット」を開催。さらに同じ年、岬の先端にえりもを象徴する襟裳岬『風の館』も完成しました。ここではえりもの歴史、風との闘いから共生までを紹介するなど、学術的にも観光資源としても貴重な施設となっています。

風との共生を模索する過程で、えりもはさまざまな可能性を見出してきました。えりもにとって、風はまちづくりに欠かせないもの。これからもえりもは風との共生をめざし、まちづくりを展開していきます。





100年後の未来を見据えた 2つの森林づくり事業

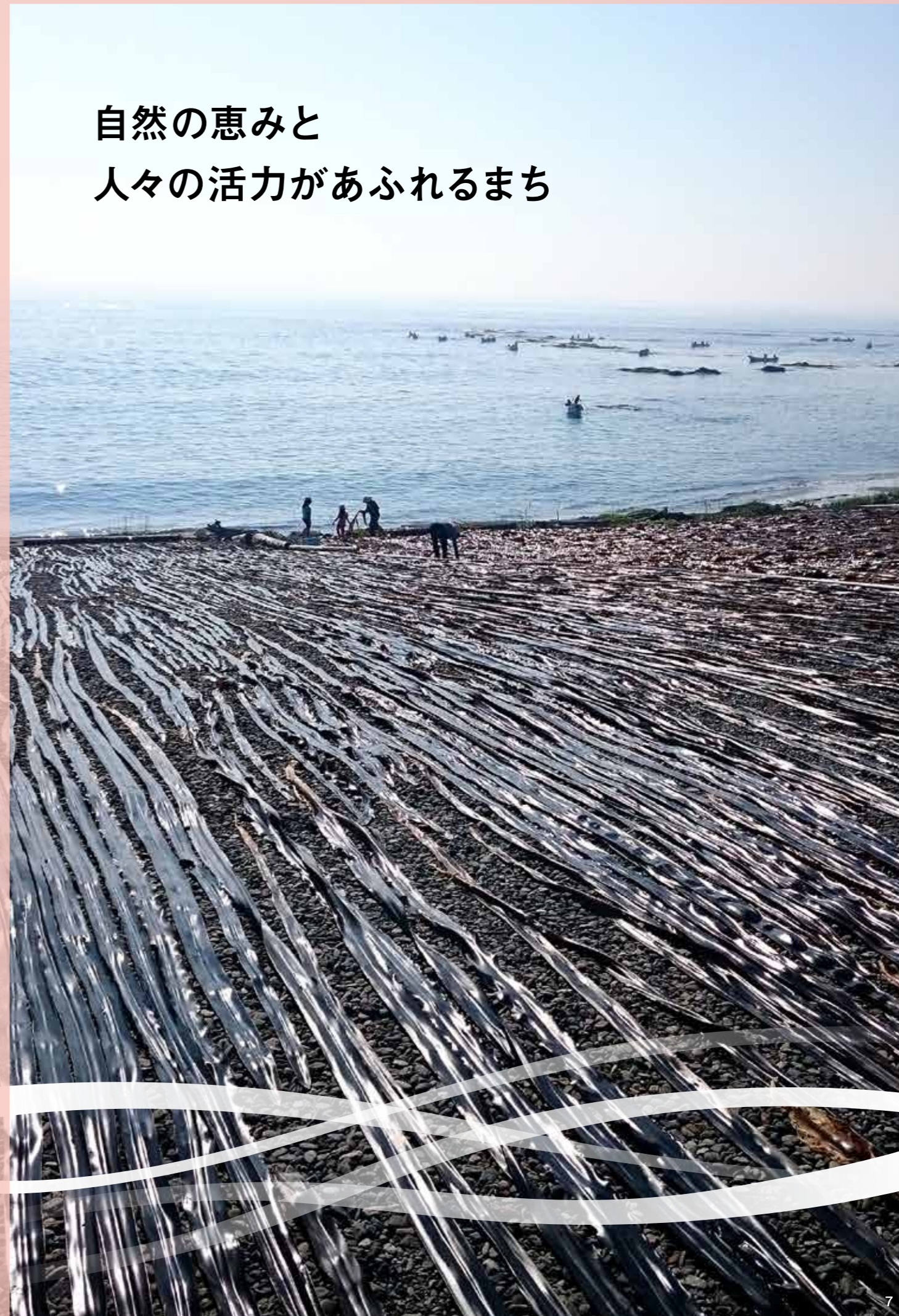
草を根づかせる草本緑化から、木を植える木本緑化へと進められたえりもの緑化事業。森林がもつ意味と価値を理解していた旧浦河営林署職員と地元の人々が、歳月をかけて緑をよみがえらせたわけです。それは、地球環境の保全という考え方が浸透し

ていなかった時代にはじまり、その重要性が認識されはじめた時代に成し遂げられた画期的な事業でもありました。しかし、えりもの森はまだ若く、この先50年、100年を見据えた森づくりが求められています。ゆえに、今も「えりもワクワク森林づくり事業」と

「えりもイキイキ森林づくり事業」として引き継がれ、植樹、枝打ち作業、本数調整伐などを行い、在来の広葉樹の侵入を促しながら森を育て守る活動を展開。今後も多くの人の協力を得て、森と海の絆を深めていくような森林づくりを進めていきます。



自然の恵みと 人々の活力があふれるまち





漁業

親潮と黒潮がぶつかる良好な漁場を有するえりも町。港湾や漁港は、約58kmにわたる海岸線の7カ所にあり、地域マリンビジョンを策定し整備を進めているところです。近年、中心であった昆布漁やサケ定置網漁は漁獲の変動が激しく、生産の安定化が求められています。そのため、昆布資源の維持と安定した生産を目的に、雑海藻の駆除による漁場整備を継続。さらに、ふのり

漁場の造成をはじめ、ヒトデ駆除事業による漁場環境の保全にも力を注いでいます。また、町内には栽培漁業施設が4施設あり、種苗生産、中間育成、放流事業を行い、前浜の資源維持増大を図るため栽培漁業を推進。そして、水産業の発展と漁業の活性化をめざし、漁業活動に必要な知識や技術を習得するための経費を助成するなど、漁業後継者の育成にも取り組んでいます。

農業

えりも町の農業は、畜産業が中心です。1895年（明治28年）に肉牛約150頭を移入したことは始まり、1950年（昭和25年）に日本短角種を漁家の凶漁対策として導入したことで本格的にスタートしました。その後は、飼育頭数も年々増加し生産基盤も安定しましたが、1991年（平成3年）

以降は、GATTウルグアイ・ラウンドにより米国産牛肉の輸入自由化がはじまり、近年はより販売単価の高い黒毛和牛種の素牛生産に転換する農家がほとんどのため、えりも町黒毛和牛生産改良組合の各種活動に対し支援を行っています。



観光

えりも町にとって、観光は漁業と並ぶ基幹産業です。町内には、旧目黒小中学校の一部を改修し観光交流館として生まれ変わった『森と湖の里ふれ愛館』や、強風体験ができる襟裳岬「風の館」といった観光施設が点在。さらに、春の「えりもうに祭り」、夏の「えりもの灯台まつり」、秋の「えりも海と山の幸フェスティバル」というように、数々のイベントを通して話題づくりや賑わいづくりに力を注いで

います。豊似湖の湖面は、上空から見るとハートの形に見えることから「ハートレイク」という愛称があり、周囲1.5km、水深は最深部18mの自然湖です。上空から湖を眺めることができるヘリコプター遊覧飛行が好評のため、継続的に実施するとともに、歴史ある猿留山道の活用についてもプランを練っているところです。広域ネットワークを生かし、豊かな資源を活用した観光地づくりをめざします。





猿留山道(さるさんどう)



えりも町指定文化財「一石一宇塔」



郷土資料館ほろいずみ



灯台公園



森と湖の里ふれ愛館



緑化事業管理塔

商業

商業は、経済活動や雇用面で大きな役割を果たすとともに、町民の日々の生活を支えるためになくはないもの。えりも町では「スマイルタウン」を中心に、そ

の振興を図る取り組みを進めています。商工会が実施するプレミアム付き商品券発行事業に対する支援はもちろん、商工会や本町商店街協同組合が実施する経営

改善事業や地域振興事業についても支援を継続。また、えりもが誇る特産品のPRに努めながら、その販売促進を図っていきます。



スマイルタウン(商店街)



えりもの灯台まつり



10

えりもうに祭



えりも海と山の幸フェスティバル



えりも海と山の幸フェスティバル



暮らしに溶け込む
笑顔とやさしさ



11

子育て支援

次代を担う子どもたちはまちの宝です。えりも町には3つの保育所、そして子育てに関する相談はもちろん、さまざまな支援を行う子育て支援センターがあります。子育て支援センターでは、子どもの自発性や意欲を引き出す「うきうきランド」や、親

子のコミュニケーションを深める「親子あそび教室」を定期的で開催。子どもたちの健やかな成長を見守りながら豊かな心を育む場として、またお母さんたちの情報交換や交流の場にもなっています。



子育て支援センター



乳幼児健診



中央保育所



放課後児童クラブ



外国語指導助手による英語教育



えりも駒踊り



えりも町指定無形文化財「襟裳神楽」



文化奨励賞



町技・ソフトボール



町技・バレーボール



スポーツ奨励賞



えりも伸ウインディーズバレーボール少年団

教育・文化・スポーツ

えりも町では、中高一貫教育をいち早く取り入れ、それまで区分けされがちだった教育を結びつけることで個性を伸ばし、子どもたちの可能性をより広げています。また、国際理解教育や道徳教育、ふるさと教育にも力を入れ、グローバルな時代に対応。子どもたちの豊かな心と生きる力を育むため、柔軟で創意工夫のある教育を

実践しています。

文化面では、郷土芸能である「えりも駒踊り」や「襟裳神楽」を授業に組み込み、郷土の文化への関心を高め伝承に努めるとともに、その保存活動をサポート。また、町民の生きがいと豊かな人生に向けた取り組みとして、高齢者教室、学習活動やボランティア活動への働きかけなど、い

つでも、どこでも、だれでも学べる環境づくりに努めています。

一方、生涯スポーツもまちぐるみで推進しており、ソフトボールやバレーボールは町技にもなっています。多彩な種目で競われるスポーツフェスティバルをはじめ、ミニバレーやパークゴルフの大会も数多く開かれています。



学習規律(位)課



えりも高校体験学習(世代間交流)



えりも高校風極ワ自プロジェクト同好会「高校生カフェ」

医療福祉

えりも町では、健康づくりや病気予防の啓発活動に力を入れています。町立国民健康保険診療所においては、CTスキャナーやX線撮影装置、内視鏡ビデオスコープシステム等を導入。さらに、救急医療体制や広域医療体制の整備に努めるとともに、在宅医療サービスの充実など、さまざまな

状況に応じた医療整備を進めています。また、高齢者ならびに障害者の福祉では、特別養護老人ホーム『やまと苑』（社会福祉法人 えりも福祉会）と老人福祉寮『ゆうゆう』を中心として、ショートステイ、ホームヘルプサービス、デイサービスなど、支援体制の充実強化を図っています。



行政

少子高齢化、若者の都市圏への流出、それに伴う財政不足など、地方行政を取り巻く環境は厳しさを増しています。そのため人口が減っても持続できる地域づくりをめざし、町民の安心・安全な暮らしを優先しつつ、効果的で効率的な行財政運営をしてい

なければなりません。えりも町では、町民と行政が共通の目標をもち、それぞれの役割を理解し、協力してまちづくりを行う協働自治を推進。まちの実情に応じた施策を着実に進めながら、将来にわたって自立できるようまちづくりを進めています。



町長あいさつ



えりも町長 大西 正紀

えりも町へようこそおいでくださいました。私たちのまちは、北海道の中央部最南端にある漁業と観光のまちです。昆布、鮭を中心とした豊富な海の幸に恵まれる一方、日高山脈襟裳国定公園の襟裳岬は、風と霧と波濤が四季を織り成す風光明媚な名勝であり全国屈指の強風地帯でもあります。その風を逆手にとってオープンした襟裳岬「風の館」は、観光資源として貴重な施設となっています。

また、目黒から林道を進むと日高山脈襟裳国定公園唯一の自然湖で、ハート形の「豊似湖」があります。うっそうとした原生林の中に囲まれた湖面は、エメラルド色のハートを埋

め込んだように美しく神秘的で、訪れる観光客にとって他では例をみない見学体験の場となっています。

このような恵まれた環境を維持し、さらに推進していくために、えりも町では新まちづくりデザインの「えりも町第6期総合計画」をこのほど策定しました。輝く海と大地を次世代へつなげるまちづくりを基本理念として、「子どもと高齢者にやさしいまちづくり」の実現に向け、近未来10年間の施策を進めてまいります。

この町勢要覧をご覧になり、少しでもえりも町の姿を知っていただければ幸いです。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

生活環境

町民生活の安全性と利便性の向上を図るために、インフラの整備は欠かせません。えりも町では、計画的に道路ならびに上下水道の整備を進めるとともに、公営住宅の建て替え、修繕を行い、生活環境の充実に努めています。そして、基幹産業

である漁業と海を守るため水環境の整備・保全是大きな課題。工場や事業所などへの指導はもちろん、クリーンセンターによる不燃ごみの処理、ごみリサイクルシステムの確立など、公害を未然に防止すべく各種対策を講じています。また、日本各

地で自然災害が頻発するなか、防災や備えに対する意識は高まっています。避難路の確保、消防力の強化、防災無線施設の整備、災害用備蓄品の管理徹底など、さまざまな対策を進めているところです。



副町長 泉 紳一



教育長 川上 松美



議長 石川 昭彦



副議長 川村 一治



消防訓練



クリーンセンター



交通安全運動



公営住宅



北海道えりも町 町勢要覧

発行/えりも町企画課

〒058-0292 えりも町字本町206

TEL 01466-2-2111 (代表)

制作/株式会社北海道アート社

